

## チーム医療：呼吸ケアチーム（RST）

### —関係部署—

心臓血管外科	口腔外科
外科	整形外科
血液内科	呼吸器外科
総合内科・感染症内科	看護局
内科	臨床工学科
循環器内科	リハビリテーション科

### —概要—

2010年度の診療報酬改定から、呼吸ケアチーム(RST: Respiratory care Support Team)加算が新設された背景から、当院でも同年よりRSTが結成されている。

2020年度は呼吸器内科医師(1名)、肺腫瘍内科医師1名、急性・重症専門看護師(1名)、集中ケア認定看護師(2名)、臨床工学技士(3名)、理学療法士(2名)をコアメンバーとし、人工呼吸器離脱及び呼吸ケアに係る専任チームとして活動した。

RSTの目的は、人工呼吸器の離脱に向け、患者家族の苦痛緩和を含む呼吸管理および看護方法の相談を受け、医療チームを支援することである。安全な呼吸ケア提供のために必要な知識を医療者に提供し、医療の質向上を目指した。

2020年度のRST依頼件数は38件で、のべ51名の患者に対して回診を行った。

活動内容は週1回の定期ラウンド(毎週水曜14時から1時間程度で対象患者は1～数名)に加え、定期ラウンド以外にも個人ラウンド(メンバーが単独で訪問し、主治医・受け持ち看護師と共にケアを実施)を行った。当該部署でのケア継続のために、回診時はRST診療録に記録し、回診内容の要点を担当スタッフに伝達した。スムーズな呼吸器離脱とその後の呼吸ケアについて助言する事で、患者さんの心身の苦痛緩和、安全確保、看護師のケア能力の向上を目指して相談を受け支援を行った。

呼吸ケアに関するデータ収集(人工呼吸器離脱率や離脱成功基準や失敗の理由・依頼状況や素因・人工呼吸器離脱患者数・人工呼吸器日数など)も、継続して行った。

また、RST内でのカンファレンスを開き症例検討を行う事で患者の問題点の共通認識を行い、ケア方法を検討する事で、より良いケアや介入を提案する事ができた。

### —実績—

RST依頼件数 38件 (回診患者数：のべ51名)

呼吸ケアに関するデータ収集結果

呼吸器離脱成功患者 19名

人工呼吸器離脱中止患者 8名

(呼吸器付き転院等で離脱の必要性が消失)

リハビリテーション科スタッフへの吸引手技教育

新採用者へのRSTチーム活動紹介：1回/年

病棟依頼の勉強会開催 1回

### —今年度の成果と反省点—

今年度の相談件数は前年に比べ減少したが、19名の患者が呼吸器からの離脱・抜管に至っている。長期の人工呼吸器装着患者においても離脱する事ができており、短期的な離脱計画だけでなく、患者状態に合わせた長期的なPLANを立案し安全に呼吸器離脱を援助する事ができた。

また、今年度は呼吸に係る活動として、リハビリテーション科スタッフ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)に対して吸引手技の教育を行う事で、看護職種以外のリハビリスタッフも緊急時に吸引を行う事ができるようになった。ただ、教育を行えたのは全スタッフの1/4程度であった。

### —来年度への抱負—

人工呼吸器離脱には様々な職種の協力が必要であり、それぞれの職種が呼吸についての知識を有する事が必要である。そのために、来年度は積極的にRST主催の勉強会を開催し、看護スタッフを中心に知識の向上や技術の修得が出来るように活動し、RST単独ではなく、病棟全体・多職種による呼吸ケアの取り組みが出来るように活動を行っていく。また、リハビリスタッフだけでなく、臨床工学技士等にも吸引手技教育を実施し、緊急時の気道確保を行える様にする事で、患者の生命を守り、その後のADLの早期回復に繋がれる事ができると考える。そのためにも、教育プログラムの実施を拡大していきたい。